

ティーチング・ステートメント

所属 北海道科学大学
未来デザイン学部
メディアデザイン学科
名前 鈴木 康広

作成日 2020年9月9日

更新日 2023年3月22日

【責任】

未来デザイン学部メディアデザイン学科に所属し、情報処理、ビジネススキルに関する科目を担当している。ゼミ生の研究指導、学生のキャリア支援、天文部の顧問活動を行っている。また、オープンキャンパス、高大連携で高校生への模擬講義を担当している。

【理念】

メディアデザイン学科の学生が活躍する場はデジタルコンテンツの溢れている場である。その場で、人に伝わるデジタルコンテンツを創り続け、社会に貢献できる人材になって欲しい。そのために、常に新しいことを取り入れ、自ら学び、行動することができる人材を育成したいと考えている。

メディアデザイン学科は文理融合型の学科であるため多様な学生が入学してくる。学生個々の特性を把握し、それらに応じたきめ細かい教育を行うことで早期に将来のビジョンを描かせることが重要である。これにより、変化が激しい世の中で、学生が「なりたい自分」を実現することができると考えている。

【方針・方法】

上記の理念を実現するために、「講義における理解度向上」、「卒業までのビジョン構築」、「人間力形成」、「教員自身の能力向上」の方針によって方法論を構築している。

「講義における理解度向上」

- ・ 学生が理解しやすい（興味を持ちやすい）講義資料の作成を心がけている。
- ・ 学生自身が手を動かして（手書きで）作業をする紙媒体を用いた課題も取り入れている。
- ・ 課題を毎回の講義で課し、その結果を学生にフィードバックして不足している知識を明確にしている。
- ・ Moodle のフォーラム機能や確認試験、講義中の巡回視察で学生の理解度を把握し、次の講義で理解度の低い部分を補足している。

「卒業までのビジョン構築」

- ・ 初回講義で学科 DP と講義の関係、職業との関係を説明している。
- ・ 講義の最後に Moodle のフォーラムに講義への取り組み状況など、その日の講義に関する様々なことを書き込ませ、振り返りをさせている。
- ・ 講義やゼミなどでは学生との対話の機会を多く設け、個々の学生の考え方などを把握し様々なアドバイスをしている。
- ・ 講義を通して様々なコンテストへの応募を勧めている。

「人間力形成」

- ・ 挨拶、私語厳禁、課題のメ切り守るなど社会人として相応しい振る舞いを明確に、繰り返し示している。
- ・ 協働することに慣れてもらうため、講義ではグループワークを取り入れている。

「教員自身の能力向上」

- ・ 講義中の巡回視察、学生との対話を通して、より効果的な講義資料の作成を試みている。
- ・ 講義に関する実践例などを学会で発表し様々な意見を頂く（様々な事例を知る）ことで、より効果的な授業運営を目指している。
- ・ 授業公開・参観、FDなどに参加することで教員自身のスキル向上を目指している。

【評価・成果】

- ・ 2022年度の授業評価アンケートでは、講義の達成目標を達成できた学生はおむね6～7割であった。
- ・ 天文（同好会）部での活動が活発になり、同好会から部へ昇格した。
- ・ 講義におけるPBL実践例が論文に採択された。
- ・ 学生の就職に対する意識が高まった。
- ・ メディアデザイン学科への受験者が増加した。
- ・ 多くの学生が様々なコンテストへ応募し、入賞している。

【目標】

- ・ 学生が早期に将来のビジョンを描けるようなカリキュラムの設計（2024年度改組へ向けて）を行う。
- ・ 学生の希望職種への就職率の向上だけでなく、質の向上も目指していく。
- ・ 様々な学会・FDに参加し、講義実践例の調査を行っていく。